

「保幼小の架け橋カリキュラム」の視点から 「育てたい子どもの姿」について語り合う ～令和6年度 町保幼小接続研修会での実践～

茨城町



茨城町では園内リーダーと保幼小接続コーディネーターの研修会を年2回実施している。今年度は、小学校区ごとに「架け橋カリキュラム」の検討を2回に分けて行うこととした。1回目の研修は令和6年7月26日（金）に実施し、保幼小の先生が子どもたちの学びについて、共通の視点をもつためのグループワークを行った。

参加者 公立幼稚園 10名、私立幼児教育施設 5名、小学校 4名、教育委員会 3名
参加者は子どもたちの遊びや学びの写真、園や学校のランドデザインを持参

■グループワーク① 「育てたい子どもの姿」を考えよう

架け橋カリキュラム作成のために、子どもたちにどのような力を身に付けてほしいのかを話し合った。各園や小学校の教育目標や、日頃子どもたちに接している中で感じていることをもとに話し合い、小学校区ごとに1つのキャッチフレーズにまとめた。

■グループワーク② 「大切にしたいこと」を語り合おう

各園や学校から持ち寄った遊びや学びの写真を紹介し合いながら、子どもの姿を語り合った。その際、グループワーク①で決めたキャッチフレーズとの関連や、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」をもとに話すようにした。保幼小の先生が共通の視点で語り合うことで、互いの教育を理解し、学びの連続性を意識できるようにした。

小学校区ごとに作成したカリキュラムシート▶

キャッチフレーズを記入



5歳児～小学校1年生の写真を時系列に並べ、発達の段階を捉える

■参加者の感想から

- ・写真を見ながら様々な活動やねらい、子どもたちの様子を聞くことができ、今後の保育の参考になった。また、普段の生活から改めて、自分自身の保育を振り返り、子どもたちがどのように成長できるかを考えて保育を行っていく大切さを学んだ。（幼児教育施設）
- ・カリキュラム作成を通して、幼児教育施設の先生方がどのような願いや思いをもって保育にあたっているのかを知ることができた。写真を見たり話を聞いたりすることで、幼児の遊びの具体的な姿を知ることができた。幼児教育施設でたくさんの経験を積んでいることも分かり、驚いた。（小学校）

【成果】 小学校区ごとのグループ編成にしたことで、保幼小の先生が気軽に話し合える関係づくりができた。写真があったので子どもたちの遊びや学びの様子を共有しやすく、話し合いが活発になった。

【課題】 研修会に参加していない先生方にも取組を広げて、カリキュラムを日常的に活用できるものにしていく必要がある。

【今後の予定】 2月に実施する第2回町保幼小接続研修会で、「先生の関わり」や「環境構成の工夫」をテーマに話し合い、架け橋カリキュラムに加えていく。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラム検討

筑西市架け橋カリキュラム

～育ちを支える共通の視点で検討するカリキュラムデザイン～

筑西市



筑西市保幼小連絡協議会概要

役員 幼児教育施設役員 5 名（私立・公立含） 小学校 校長 1 名

会員 筑西市内幼児教育施設 26 園全職員 筑西市内小学校・義務教育学校 16 校全職員

事務局 筑西市教育委員会 指導課

■ 年 2 回の役員会開催 「年間を通じた活動の見通しと改善点等の確認」

■ 年 3 回の研修会実施 「保幼小接続に関する取組の充実に向けた研修会」

○ 第 1 回研修会

・ 期間 令和 6 年 5 月から 7 月までに各学校で開催。

・ 研修内容 筑西市内全小学校が「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「小学校入学期～1 学期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を明確にしたうえで、**小学校 1 年生の授業を公開し、筑西市内全幼児教育施設が参観した。**

・ 協議・情報交換会 接続の在り方の改善点について、管理職、1 年生担任が話し合った。

○ 第 2 回研修会

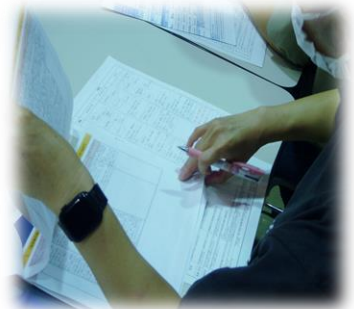
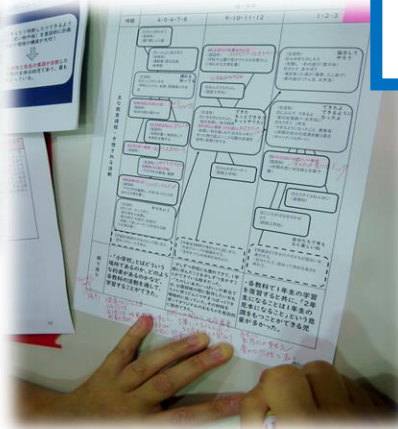
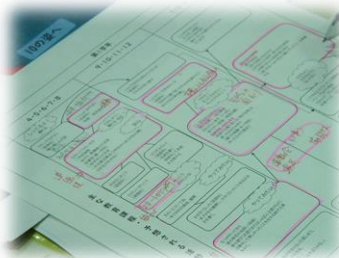
・ 日時 令和 6 年 7 月 26 日

・ 研修内容 全幼児教育施設の園内リーダーと全小学校の保幼小コーディネーターが参集し、育ちを支える共通の視点でカリキュラムをデザインした。

10 の視点



活動をデザインし、記録する
「動的なカリキュラム」へ！



○ 第 3 回研修会

・ 期間 令和 7 年 1 月から 2 月上旬までに各幼児教育施設で開催。

・ 研修内容 筑西市内全幼児教育施設が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や「茨城県保幼小接続カリキュラム」の「幼児期の終わり」に示された「具体的な子どもの姿」との関連を柱に、**年長児の保育を公開し、筑西市内全小学校が参観する予定である。**

・ 協議・情報交換会 「架け橋期」を意識した情報交換会とする。



期待する子ども像に迫るためのカリキュラムについて、「つながり」を意識してデザインした。
令和 6 年度は小学校区で活動を振り返り、来年度に向けて 10 の視点から重点を決定した。

今後も共通の視点をもって教育課程や指導計画を具現化するため、筑西市架け橋カリキュラムを活用し、カリキュラムの検討・改善に計画的に取り組む。

「保幼小接続の質の向上に向けて」 ～幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けて～

潮来市

幼児教育施設と小学校での相互参観や園児と児童との交流はこれまでも行ってきた。今後はこれらの活動に加え、幼児教育・小学校教育について理解し、それぞれの良さを取り入れた更なる指導方法の充実が求められる。そこで、保幼小接続の質を向上させるために研修会を実施した。

参加者 公立こ：2名、私立こ：9名、小学校：5名、市担当者：2名

実施日 令和6年9月17日（火）14:00～16:00

準備 県幼児教育アドバイザー派遣事業への申請、講師との事前打ち合わせ、市内小学校、幼児教育施設への周知

■講話「保幼小接続の質の向上に向けて」

講師：県幼児教育アドバイザー

茨城大学教育学部 教授 神永 直美 先生

- 保幼小の連携・接続の質の向上に向けて何が必要か
 - ・ 潮来市の現状の把握（成果と課題）
 - ・ 保幼小連携、接続の必要感、必然性についての共有
- 横のつながりと縦のつながりの強化
 - ・ 幼児教育施設の横のつながり
 - ・ 幼児教育施設での小学校の教科研修
 - ・ 幼保小の合同研修
 - ・ 幼児教育の遊びと小学校教育の学びの特性の理解
 - ・ 接続可能な体制の構築

■グループ協議

- 映像の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「小学区の学習や生活とのつながり」

・ 映像を視聴し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」では、どれにあたるか、また、その姿は小学校の学習や生活とどのようにつながるのかを個人で考えた後、それをもとにグループ内や全体で協議した。

■幼児教育施設・小学校間の相互参観

- ・ 市の計画訪問においては、市内幼児教育施設にも案内を出し、幼児教育施設職員が小学校の計画訪問を参観したり、小学校教員が幼児教育施設の保育の様子を参観したりした。

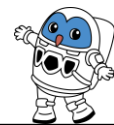


参加者からは、「幼児教育と小学校教育の相互理解の重要性」「相互参観や協議を行い共通理解ができる場を増やしていく必要性」を再認識したことなどが振り返りとして挙げられた。今後も協議や参観を通し、更に深い相互理解を進めてきたい。

幼児教育と小学校教育の連携・接続のための合同研修会 (オンラインと対面のハイブリッド研修)

～ 架け橋期のカリキュラム検討 ～

つくば市



つくば市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するため、幼児教育施設及び小学校・義務教育学校の職員を対象とした幼児教育と小学校教育の連携・接続に関する研修会を開催した。学園ごとに会場を設け、オンラインと対面のハイブリッド研修を実施した。

参加者 公立保育所、公立幼稚園、私立保育園、私立幼稚園、認定こども園、市内小学校、市内義務教育学校の担当者 92名、つくば市教育局 3名、幼児保育課 2名

準備 幼児教育施設：アプローチカリキュラム
小学校・義務教育学校：スタートカリキュラム

■ オンライン研修「講義：幼児期の育ちと学びを小学校へとカリキュラムでつなぐ」 (近隣小学校に研修者が集まってるオンライン研修)

県幼児教育アドバイザー 茨城大学教育学部教育実践科学コース教授 神永 直美 先生

内容

参加者全体で共有したい「幼児期の育ちと学びとは」「学びをつなぐとは」という内容を中心に、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を手がかりに、幼児期の教育を小学校教育に生かし学びをつなぐイメージや、保幼小接続の改善のポイントについて理解を深めることができた。また、架け橋期のカリキュラム作成に向けて、共通の視点から幼児教育と小学校教育がつながるための工夫について知ることができた。

■ 協議「協議テーマ：保幼小接続カリキュラムについて」における主な意見

内容

- ① 最近見た子どもの姿から「何かに夢中になっているな」と思った場面を2つ挙げる。
 - ② そのような子どもの姿は、どのような環境や援助によって見られたのだと思うか。
 - ③ 夢中になれる姿がより多く見られるようにするためには、どんなことをしたらよいか。
- ①～③についてグループ内で共有することで見えてきたキーワードはなにか。

● 幼児教育施設保育者の意見から

- ・保幼小の接続を円滑にするためにも、保育の質を向上させることが必要不可欠ということで、そのための具体的方法を学ぶことができ大変参考になった。グループ協議では、幼児教育と小学校教育で共通する部分や、もっと相互理解を深めた方が良い部分が明確になったと感じる。
- ・架け橋期のカリキュラム作成にあたり、相互理解を深めることが大切なのだ改めて感じた。保育参観や授業参観だけにとどまることなく、子どもの姿を語り合うことで、教師側の意図やねらいなどを知ることができ、さらにお互いのことを理解することができるのだと感じた。

● 小学校、義務教育学校教員の意見から

- ・スタートカリキュラムを毎年作成し実施しているが、子どもたちにどのように成長してほしいかという各保育園や幼稚園保育者の思いを十分理解できていなかった。しかし、今回の研修で、10の姿の大切さを再認識することができた。また、協議の場でそれぞれの学校や園の実践を知ることができたこと、教員と保育者との繋がりができたこともよかったと思う。

(資料：グループ協議用ワークシート)

問1	最近見た子どもの姿から「何かに夢中になっているな」と思った場面2つ。
問2	問1のような子どもの姿は、どのような環境や援助によって見られたのだと思いますか？
問3	夢中になれる姿がより多く見られるようにするためには、どんなことをしたらよいでしょうか？
問1～3についてグループ内で共有することで見えてきたキーワードは？(複数可)	

※これが今日の参加者みなさんのアイデアで作った「架け橋カリキュラム」の一部です。

研修を通じて、参加者の幼児教育と小学校教育のカリキュラムの連続性への理解が深まったとともに、10の姿を中心としたお互いの視点や実践を共有することができた。今後も、架け橋期のカリキュラムの作成、検討のために継続的な連携を図っていく。

「架け橋プログラムの実践に向けて」

～令和6年度 幼児教育と小学校教育の接続のための研修会の実践～

古河市



令和6年7月31日（水）13：30～16：00、古河市野本電設工業コスモスプラザにおいて、古河市における幼児教育と小学校教育の円滑な接続を推進するために、幼児教育・保育施設及び小学校職員を対象とした教育課程編成等に関する合同研修会を開催した。

- 参加者** 私立幼：2名、私立保：15名、私立こ：19名、公立保：4名、小学校：23名
準備 研修会に参加するにあたって、携行品として依頼しておいたもの
- ・幼児教育と小学校教育の接続計画書 ・年間行事計画 ・グランドデザイン、概要等
 - ・第1学年の生活科・国語科・算数科の教科書 ・筆記用具、各施設で使用している名札

■講話「架け橋プログラムの実践に向けて」

県幼児教育アドバイザー、茨城女子短期大学副学長 こども学科教授の助川公継先生を招き、「架け橋プログラムの実践に向けて」をテーマに講話をいただいた。

【**小学校職員の感想**】非認知能力を幼児期に育成する大切さを学んだ。1年生は様々な基礎・基本を定着させる指導が中心のため、教師主導になることが多いが、これからは、子供たちが自ら選択できるような活動を増やしていきたい。また、遊びや気づきなど、幼児期の学びを生かしたカリキュラムを作成していきたい。

【**幼児教育職員の感想**】保幼小の連携については、常に念頭に置いて保育をしてきた。しかし、今回の講義を受けたことで、より連携の目的が明確になった。子供たちにとって、就学は人生の中でも大きなステップであるとともに、大きな不安につながる。保幼小の教員が、子供の育ちを共有し、連携の方策を具体化し、実現することにより子供たちが豊かな学校生活を送れると思った。



■グループ協議①「就学前後の園・学校の連携について」

②「架け橋プログラムの実践に向けて」

各小学校区を基本に、小学校教員と幼児教育施設職員が組む形でグループを編成し、上記2つの内容でグループ協議、架け橋カリキュラムの作成を行った。

【**小学校職員の感想**】幼児教育は、遊びを通した学びであるため、小学校においても体を動かしたり、友達とかかわったりすることを通して、自発的な学びとしていきたい。幼児教育での経験を結びつけた授業づくりをしていきたい。

【**幼児教育職員の感想**】今までも小学校との交流会や、相互参観を取り入れてきたが、活動を行うことで満足していた。ねらいや視点を明確にして取り込んでいくことで、幼保小お互いのかかわりが深くなると知ることができたので、今年度から取り入れていきたい。



前年度に接続カリキュラムの改善をテーマに研修を行ったことを踏まえ、今年度は、架け橋プログラムの実践に向けた研修会を行った。参加者は、今までよりも長い期間で子供たちの成長を支えるカリキュラムづくりを行った。今年度は、カリキュラムの半分程度まで完成できた。各学校や幼児教育施設で行った交流や連携を振り返り、来年度の研修会で完成を目指していく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に 「保幼小架け橋カリキュラム」を考える

常総市



〈保幼小合同研修会の取組〉

ねらい 幼児期の育ちと学びを小学校教育へ円滑に接続するため、幼稚園・保育所・小学校教職員等を対象とした架け橋カリキュラム等に関する合同研修会を開催し、本市における幼児教育施設と小学校との連携・接続を推進する。

日時 令和6年8月19日（月）

参加者 公立幼稚園2名、公立保育所5名、私立保育所5名、幼保連携型認定こども園2名、小学校（保幼小接続コーディネーター）13名

■講義 「接続カリキュラムから架け橋カリキュラムへ」

茨城キリスト教大学 飛田 隆先生

- ・架け橋カリキュラムについて（幼保小の架け橋プログラムについてや小学校と幼児教育施設の教育の違いなど）

■協議 「架け橋カリキュラムについての話し合い」

- 6ブロックに分かれて架け橋カリキュラムを作成する。

- ① 子どもたちの実態から、特に育んでいきたい子どもの姿（テーマ）を、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに設定する。
- ② 「育てたい子どもの姿」を設定する。（5歳児と1年生の連続性を踏まえて）
- ③ 「遊びや学びのプロセスで大切にしたいこと」を考える。

本研修では、2学期（9月から12月の期間）のみ。

5歳児は秋の行事や活動で考える。

1年生は、生活科を中心に考える。

- ④ 「指導上の留意事項（先生の関わり・環境の構成）」は時間があれば記入。

- ⑤ 「子どもの交流」「家庭や地域との連携」は、事前に記入しておいた。



■感想

【講義】・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の一つ一つを具体例を交えて教えていただき、理解が深まった。

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がどのくらい意識して指導できているか確認しながら、聞くことができた。

【協議】・保幼小接続の重要性を改めて感じた。保育所の悩みや実態を聞き、1年生の成長を実感することができた。

- ・実際に架け橋カリキュラム作成する中で、ポイントや作成の仕方が分かり、貴重な機会となった。

■まとめ

- ・保幼小の連携の意義や重要性を改めて実感できた研修となった。
- ・8月に実施することで、9月からの交流の予定を立てることができた。
- ・架け橋カリキュラムの一部が作成できたので、さらに、県から出していただいたものを参考に完成させていきたい。

統合を見据えた保幼小中の連携体制の構築 ～協働による相互理解と連携を目指して～

美浦村

概要 美浦村では、令和7年度より、現在の3小学校（木原小・安中小・大谷小）が統合し、新しい学校として美浦村立美浦小学校を開校する。今年度は、統合に対する児童生徒や保護者、教職員の不安を少しでも和らげるために、保幼小中連携事業を定期的に実施した。また、新小学1年生がスムーズに学校生活をスタートできるように、保育者と教員の協働による「架け橋期カリキュラム」の作成にも力を入れて行った。

1 統合に向けた保幼小中連携と来年度の連携計画

●今年度の保幼小中連携の成果と課題

- 【成果1】 架け橋期カリキュラムの作成を行ったことで、担当者
間での相互理解が深まった。
- 【成果2】 保幼小中連携事業を実施したことで、子どもたちの人間
関係づくりの土台をつくることができた。
- 【課題】 架け橋期カリキュラムの教職員間への理解促進・配慮を要する児童生徒の共通理解

【先生方の声】

※保幼小中連携協議会にて
・以前は運動会で、園児対象種目がありましたね。（小学校担当者 A）
・卒業を祝う会は、保育所でも行っています。（保育所担当者）
・園児が、小学校入学後、どのような学習を行うか分かってよかった。（小学校担当者 B）

R6年度

●連携計画1

- 【教職員交流事業1】 架け橋期カリキュラムの共通理解（3～4月）・小中連絡会（5月）
- 【教職員交流事業2】 発達段階に応じた園児児童生徒理解研修（5月～7月）
- 【児童生徒交流事業1】 小中学校間交流会（行事及び合同授業等）

R7年度
前期

●連携計画2

- 【教職員交流事業3】 相互参観及び意見交換会（計画訪問）
- 【教職員交流事業4】 架け橋期カリキュラムの見直し、修正（保幼小中連絡協議会）
- 【児童生徒交流事業2】 小中学校間交流会（オープンスクール等）

R7年度
後期

2 架け橋期カリキュラムの作成に向けて

＜第1回 保幼小中連携協議会（5月21日実施）＞

【研修内容】

架け橋期カリキュラムの目的・作成計画の共有

【参加者】

保育所担当者、幼稚園担当者、小学校担当者、中学校担当者

【小学校担当者の感想】

架け橋期カリキュラム作成に向けて、連携・協働することの重要性について、理解することができた。

＜第2回 保幼小中連携協議会（11月19日実施）＞

【研修内容】

架け橋期カリキュラムの作成

【参加者】

保育所担当者、幼稚園担当者、小学校担当者

【幼稚園担当者の感想】

協働でカリキュラムの作成を行ったため、小学校で行っている学習や行事について知ることができてよかった。



令和6年度になり、統合に向けて小学校間や保幼小中間での交流が盛んに行われた。園児児童生徒の不安を少しでも和らげるため、交流行事の計画を立てて実施してきた。架け橋期カリキュラム作成についても、保幼小中連携協議会で目的を共有し、担当者同士で協働しながら作成を行ったことで、相互理解と連携強化が図られた。今後も、定期的に保幼小中連携協議会を開催し、架け橋期カリキュラムを見直し、修正を行っていききたい。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラム検討

「五霞町版幼保小架け橋プログラム」の作成に向けて ～「五霞町版保幼小接続プログラム」の今について語り合う～

五霞町



- ・主 催：五霞町教育委員会
- ・日 時：令和 6 年 6 月 27 日（木） 15:30～16:30
- ・場 所：五霞町中央公民館 B 研修室
- ・参加者：教育長、校長、こども園主任、こども園年長児担当、小中学校教務主任、
小中学校 1 学年主任、生涯学習 GL、指導主事、社会教育主事



■説明 1「令和 6 年度保幼小中連携・接続推進事業について」

- ・背景、五霞町が目指す児童・生徒像について確認した。
- ・「五霞町版保幼小接続プログラム」について確認した。



■説明 2「五霞町家庭教育支援員五霞小学校授業参観の感想について」

- ・前年度、訪問型家庭教育支援で全戸訪問した家庭の児童について、家庭教育支援員が小学校参観したときの感想を共有した。

■各園・各校からの発表

- ・事前に作成した「連携・接続推進状況報告」に基づいて、それぞれの取組を発表した。



おひさま



五霞幼稚園・保育園



五霞小



五霞中



■情報交換

- ・主任グループ、担任グループに分かれて、連携・接続について情報交換した。

【主任グループ】

在園期間が個々に違うため、個性を確認しながら声掛けを行う。3 才～小学校入学までに、個人差が出ているため、個に応じた指導が必要。年長は学校教育への順応が…
教員の視野を拡げることが必要。

【担任グループ】

小学校もフラッシュカードを行っている。2 学期から漢字を行う。月刊誌、漢字絵本が小学校の教科書につながっていく。入学時はみんなでめくるページを合わせることが大変。雑巾掛けのしぼり方など、6 年生が見本となって行ってくれる。自分達で使ったところを掃除することが大切。中学校から、掃き方、拭き方を教わり、小学校で取り入れた。机の運び方等も 2 人で運ぶ等のやり方を細かく伝えてきた。



- 家庭教育支援員小学校参観の感想の共有は、こども園や小学校の先生方の励みになった。
- 保幼小連携・接続については、カリキュラム通りに進めていることで安定している。
- 学びの連続性、教師のつながりがとても重要である。

交流の充実

相互参観・体験
実践事例の共有

合同研修会・協議会
情報交換会

架け橋期の
カリキュラム検討

「架け橋期のカリキュラム」の編成・実施 ～遊びや学びのプロセスと先生方のかかわりについて～

境町

幼児期から児童期にかけては、学びの基礎力を培う大切な時期であり、互いの教育を見通し、連続性・一貫性のある教育を行う必要がある。架け橋期のカリキュラムによる円滑な接続を行うために本委員会を開催し、保幼小の連携事業を行う。

参加者 私立保育園 : 4園4名 私立認定こども園 : 5園5名
小学校 : 5校5名
子ども未来課 : 1名
教育委員会 : 指導主事2名、学校教育指導員1名、教育相談員1名
社会教育主事1名

■本年度の事業計画

- 令和6年度境町幼児教育と小学校教育の接続委員会
 - ①架け橋カリキュラム（スタート・アプローチカリキュラム）の見直し
 - ②授業と保育の相互参観及び協議の実施
 - ③保幼小接続のための研修会の実施
 - ④実践報告書の作成



■保幼小接続事業、授業と保育の相互参観の実施

6月21日（金）境町立猿島小学校で実施（町計画訪問と兼ねる）

9月27日（金）認定こども園バンビーノせいしゅうで実施

＜参観者の感想より＞

- ・児童の発表や発言に肯定的で、言ってよかったと思える雰囲気づくりが素敵だった。
- ・「さすがです」など、発言したことに対する対応が丁寧だった
- ・児童の目線の高さまで腰を落として共感するような声掛けがあった。
- ・子どもたちに考えさせるような発問の工夫や進め方が見られた。
- ・園児一人一人が完成のイメージをもって活動していた。
- ・自分が作りたいと思うものを、考えて表現しようとする姿が見られた。
- ・指導しすぎないようにしていたのが、素晴らしいと思う。



等 肯定的意見が多数

■保幼小接続のための合同研修会の実施

11月29日（金）：境町幼児教育と小学校教育の接続推進事業研修会

国の保幼小架け橋プログラム事業、本年度の県、境町の取り組みについて確認し、本年度は境町のアプローチ・スタートカリキュラムについて見直しを行った。また、本年度も引き続き相互授業参観と研究協議に取り組んできた。相互授業参観の機会を設定し、意見交換をすることで、保幼小のさらなる連携を図ることができたので、継続的にこの事業に取り組んでいく。